

年 組 名前:

掃除やめ昼休み延長 週末の宿題なし 負担減 子ども伸び伸び

県内小中「ゆとり」再評価

山梨県内の小中学校で、掃除を休んで昼休みを長くする日や、休み前の宿題をなくしたりといった見直しが進んでいる。新型コロナウイルス禍で減った子どもの外遊びの時間を確保し、伸び伸び過ごすことで豊かな体験を促すことが狙い。次期学習指導要領ではカリキュラムの編成を巡り学校の裁量が広がる見通しで、不登校の児童生徒数が増え子どもの負担の重さが指摘される中、「ゆとり」を再評価する動きが出てきている。

〈中嶋寿美子〉

1月下旬、甲府・相川小。火、木曜の週2日、掃除の時間を休み、従来よりも20分延ばした40分のロング昼休みを設けている。校庭では子どもたちがドッジボールやサッカーをしたり、一輪車に乗ったりして遊んでいる。児童が転んだ友達を助け起こし、教員が遊びの輪に加わって談笑する場面も見られた。

ロング昼休みはコロナ禍で下校後に友達と遊ぶ約束ができなくなり、放課後の遊びの文化が廃れかけた中で導入された。保坂茂校長は「体づくりだけでなく、下級生にボールを優しく投げる、場所を譲るといった思いやりが遊びの中

とを重視した。希望者には学力に応じてオーダーメイドの宿題を出せると捉えてもらえたら（同校）という。

より大きくカリキュラムを見直した学校もある。丹波中では2025年度から長期休暇の宿題をなくし、中間期末試験の代わりに、単元ごとにテストする自由進度学習に切り替えた。休み明けには、飛行機が見えて音が聞こえるまでを計る実験、「青春18きっぷ」を使った旅の記録などが自由研究として提出された。出羽勝頼校長は「テストで計れない被認知能力を含め、学力をどう定義するか再検討した」と説明。24年度と比べ学校を休みがちな子どもの様子が変化したといい、「やることは同じでも自分で選ぶことで負担感は減る。テストの結果で一喜一憂せず、長い目で見れば学力の定着や学ぶ意欲につながる」と話す。

30年度以降に全面実施される次期学習指導要領では、子どもの状況に応じて柔軟なカリキュラムが編成できるこ

学校の裁量を拡大し、各教科の授業時間を一定範囲で増減可能にする見込み。削った時間は別の教科に上乘せられるほか、教員研修にも使えるようになる。

山梨大教育学部の田中健史朗准教授は「小学校の年間授業時間が増え、教科書も厚くなり、子どもの負担は格段に増えている」と指摘。昨年発表された小中学生の不登校や自殺が過去最多となったことに触れ、「不登校の子どもが教室に来やすくなるなどの成果が出ている。減らす改革もある。これまでの当たり前を見直す時期にきている」と話した。

問1

山梨県内の小中学校で、掃除を休んで昼休みを長くする日を設けたり、休み前の宿題をなくしたりといった見直しが進んでいます。その取り組みを行う狙いを教えてください。

(2026年2月23日付 山梨日日新聞21面)

問2 丹波中では、どのような取り組みを行っていますか。

問3 あなたは、この取り組みについてどのように考えますか。自由に教えてください。